

道徳科 授業実践報告

教材名 みんないっしょだよ

令和4年10月14日（金）第5校時
授業実践 第2学年3組

《本時のねらい》

- ・固定した仲間関係を優先し、新たな仲間を排除しようとする主人公の心情を体験的に考えることを通して、見た目などで判断せず、誰に対しても公正、公平に接しようとする態度を育てる。

深い学びポイント

1 つかむ	2 見通す	3 自力	4 協働	5 練り上げ	6 メタ認知
《授業展開の工夫》 役割演技や動作化を取り入れて、一人ひとりが自分の考えをもち、すすんで表現したり伝え合ったりする学習を実践すれば、					
《児童の変容》 多面的・多角的に考える資質が身に付くとともに、日常生活をよりよく生きようとする姿が見られるようになり、「深い学び」が実現されるであろう。					

深い学びに到達させる手立て 1

動作化や役割演技等をして体験的に考えることができるようにする。



いつものなかまとボール投げ。
とっても楽しい。最高！



しまうまたち

オカピくん、泣いてるよ。
もようが違くと本当に遊べないのかな。

遊べると思うよ。
オカピくんに謝ろう。

「もようが違うから遊べない」
なんて言って、ごめんなさい。

一緒に遊びましょう。

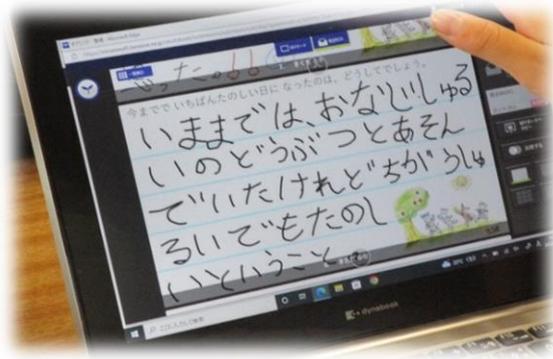
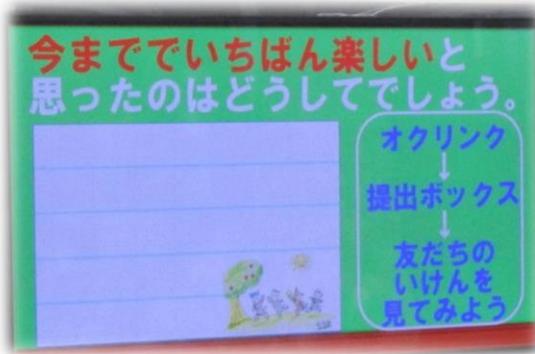


オカピのところへ

「仲間はずれは、いけない」ということは、2年生なら当然分かっている。動作化や役割演技をしながらしまうまたちになりきって考えることにより、無意識のうちに行ってしまった仲間外れを自分事としてとらえ、見つめることができた。

深い学びに到達させる手立て 2

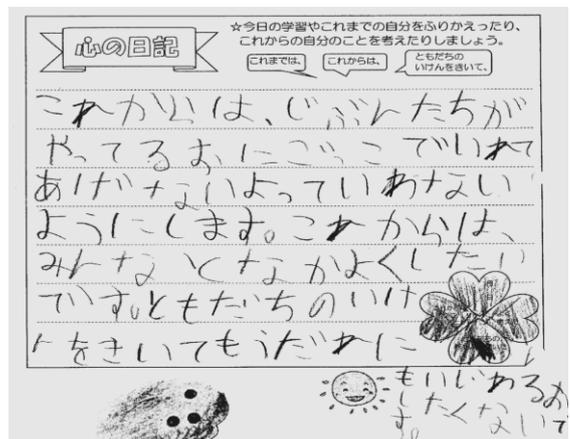
ICT を用いて自分の考えを出し合う中で、友達の意見にも触れ、対話による納得解を得る。



まずは、自分一人で考えをまとめ、提出した後、友達の考えを見る活動を行った。一人で考えを深めることが難しかった児童は、考えを深める糸口になった。自分で考えを深められた児童は、新たな考えに触れたり、自分の考えに自信をもてたりした。その後、疑問点を聞き合うなどの対話を行うことにより、自分なりの納得解を得る機会になった。

深い学びに到達した姿

毎時間取り組んでいる「心の日記」には、①本時やこれまでの自分を振り返って②自分がこれからどうしていきたいのか③友達の意見を聞いて自分が思ったことの3つの視点を示した。本時のねらいについて再思考させることで、今後のよりよい生き方について目を向けさせることができた。



指導講評

教育研究所 主任指導主事 高橋 明裕先生

- 「動作化で一人ひとりがしまうまになって考える」のは、個別最適な学びの一步である。低学年においては、「まず動かす」のはとても大切な学習活動である。
- 役割演技後に「やってみてどうだったか」と、演者に聞いたこと、観客を「お日様になって聞いて」と聞く視点を与え、演技後に「お日様のみんなはどう思った？」と、観客に聞いたことが有効だった。
- クラウドを活用することで、中途の考えを共有することができる。それによって児童は、短時間で自分の考えをアウトプットし、友達の考えをインプットできた。その上で自分の考えを再構築し、さらに高まった自分の考えをアウトプットすることができていた。道徳の授業以外でも日常的に活用していただきたい。
- 「心の日記」では、子どもたちなりの言葉で自分との関わりの中でこれからのことを考えていた。教師が子どもの言葉をうまく価値付けていてよかった。
- ねらいから少しずれた意見には、オクリンクで出された意見を見て意図的指名をするという方法もある。

成果と課題

- ◎動作化や役割演技をして体験的に考えることで、自分の考えを明確にもつ個別最適な学びにつながった。
- ◎ICTを活用し、自分の考えを基に友達の考えに触れ、自分の意見を再構築する過程を繰り返すことにより、学びの自律化につながった。
- ◎継続して取り組んでいる心の日記は自分のよりよい生き方を探究することにつながった。